

国立民族学博物館研究報告 vol.11-3; 表紙, 目次ほか

雑誌名	国立民族学博物館研究報告
巻	11
号	3
発行年	1987-02-28
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009223

1986—11.3号
卷

国立民族学博物館 研究報告

● 東アジア・東南アジアのナレズシ

——魚の発酵製品の研究(2)——石毛直道

住空間の民族誌

——中国江南の伝統的住居をめぐって——浅川滋男

近代エジプトにおけるスーフィー教団について——古林清一



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

11 卷 3 号

1986年

目 次

東アジア・東南アジアのナレズシ	
——魚の発酵製品の研究(2)——	石毛直道…… 603
住空間の民族誌	
——中国江南の伝統的住居をめぐって——	浅川滋男…… 669
近代エジプトにおけるスーフィー教団について	古林清一…… 781
彙 報	…… 793
国立民族学博物館研究報告寄稿要項	…… 807
国立民族学博物館研究報告執筆要領	…… 808

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 11 No. 3

1986

- ISHIGE, Naomichi *Narezushi* in Asia: A Study of Fermented
Aquatic Products (2) 603
- ASAKAWA, Shigeo The Ethnography of Dwelling Space: A
Study of Traditional Dwellings in the
Jiangnan District, China 669
- KOBAYASHI, Seiichi Sufi Orders in Modern Egypt..... 781

彙 報

(昭和61年7月～
昭和61年9月)

人事異動

(教育職) (採用)
7月1日 第一研究部助手 瀬川昌久
(昇任)
第四研究部教授 石毛直道
(第四研究部助教授)
(採用)
8月1日 第二研究部助手 田中雅一

シンポジウム

「中国西南民族学術討論」
期間 昭和61年9月18日(木)～20日(土)
場所 国立民族学博物館
摘要 今回のシンポジウムでは、中国における西南中国民族文化研究の第一線の研究者を招へいし、西南諸民族のもつ文化の特徴と日本の伝統文化との類似性や共通性について、日中双方の立場から討論がおこなわれた。

中国側参加者

馬 曜 雲南大学・雲南民族学院歴史学教授
白(ペー)族
彭措次仁 西藏自治区編訳局副局長
藏(チベット)族
向 零 貴州省民族研究所長
侗(トン)族
余宏模 貴州省民族研究所副所長
彝(イ)族
康鏡明 四川省民族事務委員会副任
漢 族
梁友寿 広西壮族自治区民族研究所副所長
壮(チワン)族
趙 明 四川省凉山彝族自治州哲学社会科学学会連合会副会長
彝(イ)族

日本側参加者

梅棹 忠夫 国立民族学博物館長
佐々木高明 国立民族学博物館教授
松澤 員子 国立民族学博物館助教授
大林 太良 東京大学教授
横山 廣子 東洋英和女学院短期大学講師
坪井 洋文 国立歴史民俗博物館教授
伊藤 清司 慶応義塾大学教授

君島 久子 国立民族学博物館教授
藤井 知昭 国立民族学博物館教授
周 達生 国立民族学博物館助教授
長野 泰彦 国立民族学博物館助教授
竹村 卓二 国立民族学博物館教授
田中 淡 京都大学人文科学研究所助教授
田辺 繁治 国立民族学博物館助教授
瀬川 昌久 国立民族学博物館助手

日 程

9月18日(木)
〈セッション1〉 (座長 藤井 知昭)
西南中国少数民族文化と日本の基層文化
—照葉樹林文化論をめぐって—
佐々木高明
〈セッション2〉 (座長 君島 久子)
孔子の民族学 馬 曜
〈セッション3〉 (座長 横山 廣子)
台湾山地諸民族の伝統文化と社会
松澤 員子
〈セッション4〉 (座長 松澤 員子)
華南少数民族の作物起源神話
大林 太良
白族の命名システム 横山 廣子
〈セッション5〉 (座長 周 達生)
日本民俗研究への展望 坪井 洋文
9月19日(金)
〈セッション6〉 (座長 坪井 洋文)
女神の庇護下のふるい民族 一從江県九
洞侗族社会組織調査と分析—
向 零
〈セッション7〉 (座長 伊藤 清司)
広西花山壁画と壮族 梁 友 寿
〈セッション8〉 (座長 伊藤 清司)
凉山彝族のふたつの自然観について
趙 明
〈セッション9〉 (座長 大林 太良)
日本と西南中国の神判 伊藤 清司
中国の民間伝承と日本 君島 久子
〈セッション10〉 (座長 長野 泰彦)
ボン教の生成と発展 彭措 次仁
〈セッション11〉 (座長 竹村 卓二)
西南中国少数民族における歌謡と山歌
藤井 知昭
9月20日(土)
〈セッション12〉 (座長 佐々木高明)
今後の計画

海外における研究・調査・収集活動

氏名	官 職	出 発	帰 国	行 先
宮本 勝	助教授(第二研究部)	61. 7. 1	61. 9. 30	フィリピン
江口 一久	助教授(第三研究部)	61. 7. 7	61. 7. 22	中華人民共和国, 香港
佐々木史郎	助 手(第一研究部)	61. 7. 17	61. 7. 31	ソビエト連邦

吉田 集而	助教授 (第二研究部)	61. 7. 18	61. 12. 26	パプアニューギニア
藤井 知昭	教授 (第四研究部)	61. 7. 23	61. 9. 4	インド, ブータン
江口 一久	助教授 (第三研究部)	61. 8. 1	62. 4. 1	カナダ
松原 正毅	助教授 (第二研究部)	61. 8. 4	61. 10. 20	トルコ共和国, 連合王国
片倉 素子	教授 (第二研究部)	61. 8. 10	61. 9. 15	スペイン, モロッコ
佐々木高明	教授 (第二研究部)	61. 8. 17	61. 8. 27	タイ
田邊 繁治	助教授 (第二研究部)	61. 8. 17	61. 8. 27	タイ
杉本 尚次	教授 (第五研究部)	61. 8. 20	61. 10. 4	アメリカ合衆国
守屋 毅	助教授 (第一研究部)	61. 8. 20	61. 10. 4	アメリカ合衆国
福井 勝義	助教授 (第三研究部)	61. 8. 24	62. 1. 13	エチオピア, スーダン, ケニア, ソビエト連邦, 連合王国, スウェーデン
小川 了	助教授 (第三研究部)	61. 8. 30	61. 11. 29	ケニア, スーダン, エチオピア
小山 修三	助教授 (第四研究部)	61. 8. 30	61. 12. 22	オーストラリア
小谷 凱宣	助教授 (第一研究部)	61. 8. 31	61. 9. 14	アメリカ合衆国
和田 祐一	教授 (第三研究部)	61. 8. 31	61. 9. 14	アメリカ合衆国
庄司 博史	助手 (第三研究部)	61. 9. 14	61. 10. 24	フィンランド, ハンガリー
大塚 和夫	助手 (第三研究部)	61. 9. 17	62. 2. 21	エジプト, スーダン, 連合王国
秋道 智彌	助手 (第二研究部)	61. 9. 18	62. 2. 14	パプアニューギニア
松山 利夫	助教授 (第一研究部)	61. 9. 19	62. 2. 9	オーストラリア, インドネシア
松澤 員子	助教授 (第二研究部)	61. 9. 19	62. 1. 17	台湾

来館者抄

7月1日 南太平洋国際シンポジウム参加者一行
 G. K. GARBETT (Australia, Reader, Department of Anthropology, The University of Adelaide)
 K. D. SHARMA (Fiji, Director, Hospital Services, Ministry of Health and Social Welfare)
 Vijay PAL (Fiji, Divisional Dental Officer)
 Uday RAJ (Fiji, Director, Institute of Marine Resources, The University of the South Pacific)
 Yuswadi SALIYA (Indonesia, Chairman, Department of Architecture, Bandung Institute of Technology)
 H. NAPITUPULU (Indonesia, Chief, Foreign Research Scholars Division, Indonesian Institute of Sciences (LIPI))
 Widnyana SUDIBYA (Indonesia, Architect)
 K. J. R. ABAIDOO (Papua New

Guinea, Dean, Faculty of Medicine, The University of Papua New Guinea)
 Jacob SIMET (Papua New Guinea, Researcher, Anthropology Department, Institute of PNG Studies)
 Karl KERENGA (Papua New Guinea, Biology Department, The University of Papua New Guinea)
 山口 修 (大阪大学文学部助教授)
 高橋 柏 (日本学術振興会特許・情報課長)
 7月10日 Steven PC Moyo (ザンビア共和国, ザンビア大学アフリカ研究所長)
 7月15日 スーザン・ブラッドリー (アメリカ合衆国, ミネアポリス市姉妹都市委員会委員)
 7月18日 朝鮮対外文化連絡協会友好訪日代表团
 辺 承 徳 (朝鮮対外文化連絡協会副委員長, 朝日友好促進親善協会副会長)
 宋 日 昊 (朝日友好促進親善

- 協会常務委員)
白 奉 圭 (朝鮮対外文化連絡協会課長)
- 7月21日 Sayyid Hamid HURREIZ (Sudan, Director, Institute of African and Asian Studies, University of Khartoum)
- 7月22日 中国社会科学院民族研究所代表团
杜 荣 坤 (中国社会科学院民族研究所副所長)
史 金 波 (中国社会科学院民族研究所主任)
張 承 志 (中国社会科学院民族研究所助理研究員)
- 7月24日 Cristian W. TROLL (上智大学客員教授)
- 7月29日 王 矜 (中国社会科学院歴史研究所高級工程師, 教授)
王 亜 蓉 (中国社会科学院歴史研究所工程師, 副教授)
姜 鎮 庆 (中国社会科学院歴史研究所副研究員)
中山 千代 (フェリス女学院短期大学教授)
- 8月2日 ペギー・ダクセン (アメリカ合衆国, ミネアポリス市)
- 8月18日 Cavid M. BOSTON (イギリス, ロンドン市立ホーニマン博物館長)
Guy G. GARRISON (アメリカ合衆国, ドレクセル大学情報学部長)
原田 勝 (京都大学教育学部助教授)
- 8月28日 中国日本学修士課程研修生一行
鄭 欣 力 (外語学院分院卒)
張 丹 (外語学院分院卒)
張 秀 敏 (錦州医学院助教)
劉 曉 方 (黒龍江大学卒)
葉 会 (北京外国語学院卒)
李 国 慶 (北京外国語学院卒)
張 景 翔 (国際関係学院卒)
宋 国 忠 (国際関係学院卒)
潘 若 衛 (北京空気イオン研究所職員)
玉 車 連 (黒龍江大学卒)
郭 連 友 (天津外語学院助教)
王 勇 (杭州大学助教)
漆 紅 (四川財經学院助教)
張 麟 声 (山西大学助教)
- 揭 俠 (南京外院講師)
馬 朝 紅 (北京外国語学院卒)
林 翠 芳 (北京外国語学院助教)
石 曉 梅 (北京外国語学院卒)
黄 美 華 (黒龍江大学卒)
冷 玉 香 (遼寧師範大学助教)
于 日 平 (北京外国語学院助教)
林 璋 (福建師範大学助教)
王 成 (山東大学卒)
馬 駿 (武漢大学助教)
候 曉 鳴 (中国紡績大学助教)
褚 鳴 (遼寧大学助教)
周 敏 西 (湖南潭湘大学助教)
金 哲 学 (北京対外経済貿易大学助教)
朱 京 偉 (北京外国語学院助教)
- 8月29日 Leda Geo MILEVA (President, Bulgarian Translators' Union)
- 9月1日 中国福建省雜技団, 工芸関係者訪日団一行
団長 黄 兆 敏 (福建省文化局芸術処副処長, 中国曲艺家協会福建分会常務理事)
秘処長 王 強 (福建省雜技団舞台監督)
通訳 李 巧 雲 (福建省人民政府外事弁公室職員)
団員 賈 国 闊 (演技員, 福建省雜技団員)
高 翔 (同)
郑 海 燕 (同)
李 健 (同)
張 健 英 (同)
張 健 生 (同)
黄 錦 象 (同)
謝 文 灯 (同)
方 園 (同)
靳 忠 (同)
黄 錦 鹿 (同)
劉 光 明 (同)
劉 光 華 (同)
胡 莹 (同)
林 健 (篆刻家, 福建省工芸家)
吳 春 增 (同)
陳 秋 日 (剪紙芸術家, 福建省工芸家)

- 9月2日 中国文物保護科学技術研究所建築視察団一行
 団長 楊占廷(文化部文物保護科学技術研究所副所長)
 副団長 李義(北京市建築設計院工程師)
 団員 王純忠(中国人民建設銀行經濟師)
 范耀邦(北京市城市規画局建築師)
 唐德滿(北京市建築設計院工程師)
 吳鐘琦(北京市建築設計院工程師)
 通訳 巨東海(文化部文物事業管理局外事処)
 U Thein HLAIN (ビルマ, ラングーン大学歴史学部講師)
 U Mya HAN (ビルマ, ラングーン大学歴史学部上級研究員)
 田村克己(金沢大学文学部助教授)
- 9月5日 J. P. SAKOUN (フランス国立科学研究センター次長)
 R. JACQUES (フランス国立科学研究センター東京事務所所長)
- 9月6日 ROVVIOLA (フランス, 在香港総領事館文化部)
- 9月9日 中国蚌埠市青少年体育交流代表団一行
 団長 田照臨(蚌埠市人大常委会主任)
 監督 錢步銀(同市体育運動委員会主任)
 秘書 寶新会(同市外事弁公室副科長)
 通訳 劉開会(同市外事弁公室副科長)
 団員 范雪萍(同市体育運動委員会武術運動員)
 邢龍宝(同)
 周耿輝(同)
 吳廣軍(同)
 李成(同市体育運動委員会卓球運動員)
 金強(同)
 陳元貴(同)
 龐岩(同市体育運動委員会囲碁運動員)
- 9月10日 胡開漢(中国, 郵電部基本建設局総合処所長)
 仲圻(中国, 郵電部北京設計所副所長)
 王育民(中国, 郵電部北京設計所建築主任)
- 9月12日 Babatun de Ozemoya
 THOMPSON (ナイジェリア, ガーディアン社編集局長)
 Chris NNOLI (ナイジェリア, デイリータイムス社科学編集者)
- 9月17日 中国西南民族学術討論参加者一行
 馬曜(雲南民族学院教授, 雲南大学教授)
 彭措次仁(西蔵自治区編訳局副局長)
 向零(貴州省民族研究所所長)
 余宏模(貴州省民族研究所副所長)
 康鏡明(四川省民族事務委員会副主任)
 梁友寿(広西壮族自治区民族研究所副所長)
 趙明(四川省涼山彝族自治州, 哲学社会科学学会連合会副会長)
- 9月20日 テオドル・ベルハム(西ドイツ, ベルツブルク大学長, 西ドイツ学長会議会長)
 ハイน์リッヒ・サイデル(ハノーヴァー大学長, 西ドイツ学長会議副会長)
 カルル・アレベレ(キーセン大学長, 西ドイツ学長会議副会長)
 ホルカー・シュッパ(フライブルク大学長)
 クリスチャン・ボーデ(西ドイツ学長会議事務総長)

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認めたる者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当たっては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1
国立民族学博物館内
国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限る。図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

[柳田 1942: 67-69]
[Leach 1961: 123]
[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]

ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]
9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。
 - (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
 - (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13(4): 311-330.

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14(4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143.

Leach, Edmund

- 1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse.
In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language,
The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

- 1966 『文明をもった生物』 日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

- 1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

- 1974 『シャーマニズム——古代のエクスタシー技術——』 堀一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

- 1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 11卷3号

〔監 修〕

梅 棹 忠 夫

〔編集委員長〕

竹 村 卓 二

〔編集委員〕

君 島 久 子

ケネス・ラドル

崎 山 理

須 藤 健 一

田 邊 繁 治

垂 水 稔

中 山 和 芳

長 野 泰 彦

福 井 勝 義

宮 本 勝

八 杉 佳 穂

和 田 正 平

昭和62年2月28日発行 非売品

国立民族学博物館研究報告 11卷3号

編集・発行 国立民族学博物館
〒565 吹田市千里万博公園10-1
TEL 06 (876) 2151 (代表)

印 刷 中西印刷株式会社
〒602 京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075 (441) 3155 (代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.11 no.3
1986

ISHIGE, Naomichi

Narezushi in Asia: A Study of Fermented
Aquatic Products (2)

ASAKAWA, Shigeo

The Ethnography of Dwelling Space: A Study
of Traditional Dwellings in the Jiangnan
District, China

KOBAYASHI, Seiichi

Sufi Orders in Modern Egypt

ISSN 0385-180X



National Museum
of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151